岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2021. 9 **No. 170**

目次／移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古」**表紙**／いわて文化ノート　繰り返す災禍と博物館―世紀を超えた記憶の継承の場として―**p.2-3**／展覧会案内　移動展 「みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古」**p.4-5**／活動レポート　第81回地質観察会「１億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！」／活動レポート　第81回自然観察会「干潟の生き物を観察しよう」**p.6**／解説員室より　博物館で映像をたのしもう！／事業案内　第１回博物館で学ぶ岩手の歴史講座**p.7**／インフォメーション**p.8**

移動展

岩手県立博物館開館40周年記念特別展

みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古

会場・共催：岩手県立水産科学館

令和３年９月25日（土）～10月24日（日）

明治三陸地震津波ガラス乾板（当館蔵）

当館の開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」の移動展を、宮古市の岩手県立水産科学館で開催します。このガラス乾板は、明治三陸地震津波の被害の様子を伝える貴重な資料で、今回の特別展で初公開となります。

■いわて文化ノート

繰り返す災禍と博物館―世紀を超えた記憶の継承の場として―

専門学芸調査員　目時　和哉（歴史部門）

はじめに

2020年ほど「不要不急」という言葉を耳にした年もないのではないでしょうか。殊に非常事態宣言下では、感染防止のため、当館をはじめとする多くの博物館等文化施設が一時的な閉館を余儀なくされました。たしかに一般的にこうした文化施設の利用が急を要するという状況はなかなか想定しづらいかもしれません。しかし、１世紀前のパンデミックが、100年を経る中で、すっかりと忘却されてしまっていたこと、その記録にはCOVID-19と向き合う上で、今なお十分参照するに足る知見が多く含まれていたことなどを顧みると、コロナ禍のような災禍においても博物館に求められる役割というものは少なからずあるのではないかと考えられます。本稿では、スペイン・インフルエンザの実相と、コロナ禍における「要」を求めて一博物館職員が行った調査研究・資料収集活動の一端をご紹介します。

１　新聞の中のパンデミック

1918（大正７）年に発生したスペイン・インフルエンザ（「スペインかぜ」などと紹介されることもありますが、病原がインフルエンザウイルスであったことから、本稿ではこの表記で統一します。）は、岩手県に限っても約35万人が感染したと記録される、COVID-19パンデミックをはるかに上回る規模の世界的な感染爆発であったといえます。

それにも関わらず、当時の岩手県の感染状況やその推移をつまびらかにした文献は皆無であり、残念ながら当館にもその具体相を知る手がかりとなるような資料は残されておりません。

そこで、感染が発生していた期間に発行された『岩手日報』の紙面から関連記事を抽出していった結果、1918（大正７）年から1921（大正10）年にかけて、県下の感染状況を伝える記事が105件見出され、上記期間中に３つの大きな流行期を経験していたことが確認されました（写真１）。前世紀のパンデミックが完全終息まで３年以上の月日を要したこと（加えて、その間、ウイルスは流行期毎にその毒性の強度や、主たる流行地域、罹患しやすい年齢層を変えながら人々を脅かし続けたこと）は、COVID-19に向き合う私たちも肝銘しておくべきです。

また、当初こそ物資の欠乏や医療崩壊など、私たちが目の当たりにしたものに重なるような光景が描写されておりますが、一方で、３度目の流行期を迎える頃には、現在でいう「咳エチケット」や「ソーシャルディスタンス」、マスクの適切な使用など、令和の世に「新しい生活様式」とよばれているような感染対策が既に一度確立されていたことが見て取れます。

二度と「新しい」と形容されることがないよう、私たちの世代の苦々しい経験とそこから得た教訓を確実に次の世代へとつないでいくことが、スペイン・インフルエンザという歴史から学び損ねてしまった私たちの責務といえましょう。

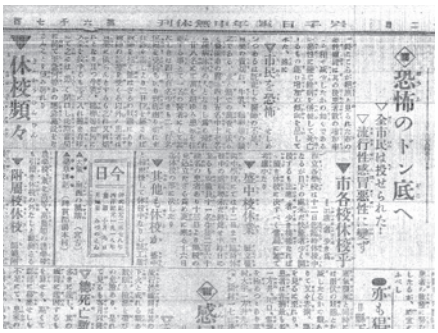


写真１　盛岡での感染拡大を伝える記事
（岩手日報　大正７年11月12日付朝刊）

２　行政文書の中のパンデミック

2021年現在、岩手県に公文書館は設けられておりませんが、県の永年保存文書は文書保存庫において閲覧に供されています（どなたでもご覧になることができますが、事前申込が必要です）。改めてスペイン・インフルエンザが流行していた時期の文書をひもといていくと、『学校衛生』の簿冊中に大量の関係資料を確認することができました。

流行の初期段階における1918（大正７）年、岩手県では国からの照会を受けて、県内の諸学校に感染状況の報告を指示しています。それに応じる形で、各地の学校が作成した膨大な量の報告書が綴じ込まれていました。

その中には１日毎に感染者数の推移を記録したものも含まれています。これにより、初発時の学校における挙動をつぶさに捕捉することができます。

一例として、鍬ヶ崎尋常小学校（現宮古市）の感染者数の推移をグラフ化したものを図１に示します。これを見ると、現代でも採用された休校措置は、100年前のパンデミックにおいても感染者数の抑止に一定の効果をあげていたことが認められます。

一方で、図１のグラフが対象としている期間以降も感染は確認され、同校の報告書によれば、休校措置解除後にも約200名の児童が罹患（りかん）したとされます。パンデミック下にあって、学校という集団生活が営まれる場は、常に感染拡大の脅威に晒（さら）され続けたことを物語っています。

このように、前世紀のパンデミックの実相について、生々しい情報を与えてくれる貴重な資料が、当時の行政文

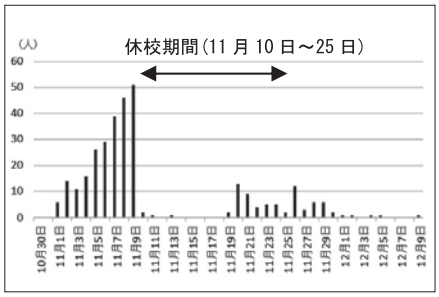


図１　鍬ヶ崎尋常小学校の感染者数推移

書の中には無数に残されています。これらを適切に整理していくことは今後の課題となりますが、その中からうかがい知ることができる歴史的事実と教訓を、現代のコロナ禍におけるそれらと対置して比較検証していくことは、次なる未見のパンデミックに備える上で、必ずや有用な知見をもたらしてくれることでしょう。

3　地域に潜在する災禍の記憶

これまで見てきたように、スペイン・インフルエンザは大正後半期の岩手県内全域で猛威をふるいました。しかしながら、不思議なことに、地域単位でその災禍について積極的に伝承している事例には未だ出くわすことができていません。内務省衛生局が1922（大正11）年に刊行した報告書『流行性感冒』によると、スペイン・インフルエンザによる岩手県下の死者数は約4000人と、1933（昭和８）年の三陸沖地震津波による犠牲者数（3000人弱）を上回っています。後者に関する石碑が三陸沿岸各地に点在し、かつ、前近代以来昭和戦後期に至るまで、疫病や感染症に関する石碑の建立は繰り返されてきたにも関わらず、スペイン・インフルエンザに動機づけられて建立された石碑は管見の限り岩手県内では見出すことができないのです。

ここからはスペイン・インフルエンザに対する大正期の人々の向き合い方の特性を読み取ることができるのかもしれません。他方で、飢饉や疫病を祓わんとする民間信仰は、容易に新型コロナウイルス感染症早期終息への願いを包摂しています（写真２）。一世紀前のスペイン・インフルエンザ禍の岩手県下でも同様の光景が現出していたことが想像されます。

このように、目を凝らしていくと、普段何気なく眺めている地域の信仰の中にも、過去の人々が直面した災禍の記憶が浮かび上がってくるのかもしれません。

写真２　2020年の虫まつりで使用された幟（岩手県雫石町）

4　災禍の記憶を保存する博物館

現下のパンデミックの記憶が二度と歴史の中に埋もれてしまわないよう、当館では2020年10月から新型コロナウイルス感染症関連資料の積極的な収集を開始しました。2021年６月末までに、実物資料に限っても200点以上をお寄せいただいています。いずれの資料も、寄贈者のコロナ禍にまつわるエピソードに裏打ちされ、パンデミックの中を生きた人々の経験と記憶を体現する存在といえます。

博物館はこうした人々の記憶を宿したモノたちを収集・保管できる数少ない場であると考えます。

東日本大震災から10年の節目に際し、福島県立博物館で開催された展覧会「震災遺産を考える―次の10年へつなぐために―」は、これまでに同館が収集した東日本大震災の記憶の集大成ともいえるものでした。陳列された資料の中には、発災直後の炊き出しで作られたものの、直後に避難を強いられたため、３年以上放置された末に収集されたおにぎりも含まれています（写真３）。名も知れぬ人により握られた、ありふれたおにぎり。実体としてはアルミホイルの中で既に朽ち果てているにも関わらず、そんな一つの握り飯が、時にどんな重厚な報告書をもってしても伝え切ることができない類の印象を見た者に残します。

このような事例から学ぶにつけて、歴史の紡ぎ手（特に県民の皆様）と一体となることで、初めて博物館は記憶継承の媒体として十全に機能し得るのだということを再認識させられます。

皆様とともに東日本大震災やコロナ禍の記憶を次の世紀まで伝えていくことにより、100年後の人々が災禍とは無縁な社会を描くための、ささやかな礎（いしずえ）を築いていくことができるとしたら、そこに災禍のただ中にあっても揺らぐことのない博物館の「要」の一つを認めることができるのではないかと考えています。

写真３　保存・展示される富岡町のおにぎり

おわりに

以上に述べてきたような見地により、当館では新型コロナウイルス感染症や東日本大震災などに関する資料の収集活動を今後も継続して参ります。日々の生活を見渡し、子や孫の世代まで託していきたいモノや記憶に思い当たりましたならば、お気軽にご一報ください。その過程で皆様からも博物館に幾許（いくばく）かの「要」を新たに見出していただけたならば、これほど嬉しいことはありません。

■展覧会案内

移動展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古」

令和３年９月25日（土）～10月24日（日）　岩手県立水産科学館（宮古市）

昭和55年（1980）に開館した岩手県立博物館は昨年で開館40周年を迎えました。新型コロナウイルス禍の影響により開幕が１年延期となりましたが、令和３年６月に開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」が開幕しました。この展覧会は三陸地方に住む人びとの暮らしや文化、それらを育んだ自然がもたらす恵みや災害について、あまり広く知られていない部分にも光を当て、三陸の多様で奥深い魅力を紹介しています。

当館で開催したこの特別展について、内容を再構成した上で「みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古」と題し、今年度９月から10月にかけて宮古市の岩手県立水産科学館において移動展を実施します。今回は展示内容について簡単に紹介します。

図２　「大槌烱屋鍛冶絵巻」（複製）

■第１章「大地の歴史」

三陸の大地の成り立ちは古く、およそ５億年前にさかのぼります。約５億年をかけて三陸が現在の形になるまでの間には、海の中でさまざまな生物が出現し、絶滅を繰り返してきました。こうした生物たちの存在の証拠は化石として三陸の大地で見ることができます。また、現在でも三陸にはハマヒナノウスツボのような固有の植物が生育していたり、クロコシジロウミツバメの国内唯一の営巣地があったりと貴重な動植物が数多く存在しています。

この章では三陸で見つかった化石をもとに地質時代から現在に至るまでにどのような生物が生きていたのかということに加え、現在の三陸の豊かな生物相について剥製標本などを用いて紹介していきます。特に田野畑村から産出したアンモナイトの化石（図１）や現生の希少な海鳥の剥製標本は必見です。

■第２章「自然の恵み」

三陸の大地と自然は人びとの生活にさまざまな恵みをもたらしてきました。例えば、釜石市周辺に広がる広大な鉄鉱床は１億年以上前の火成活動（地下深くで発生したマグマが上昇し、地表に噴出したりする活動のこと）によって形成されたものです。三陸の人びとはこうしてもたらされた鉄資源をもとに、古くから製鉄産業を行ってきました（図２）。

三陸の海は海産資源の宝庫です。複雑に入り組んだリアス海岸の穏やかな湾内では養殖事業が盛んに行われています。また、寒流と暖流がぶつかる三陸沖合は海流に乗ってさまざまな魚がやってきており、世界三大漁場のひとつとも言われています。この章では資料をとおして三陸の自然が生んだ恵みの数々を紹介します。

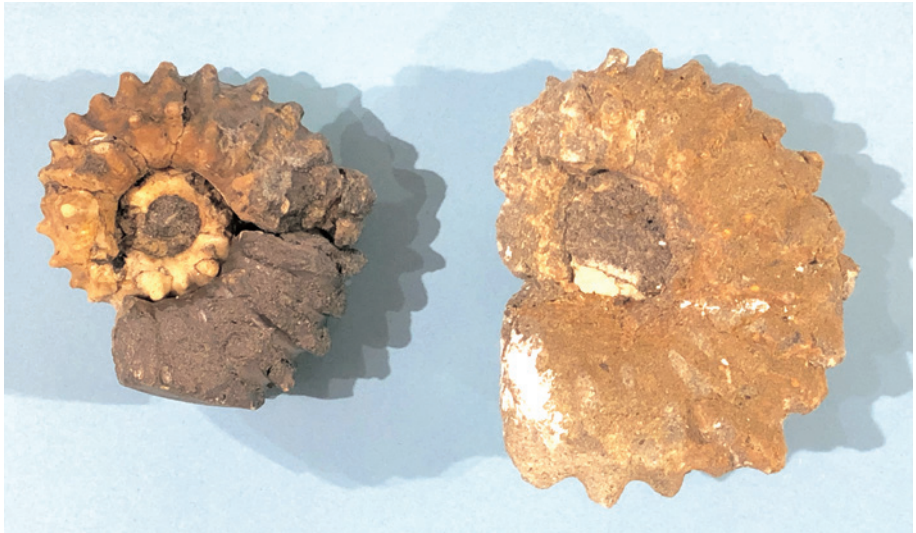


図１　田野畑村産アンモナイト化石

■第３章「災害とくらし」

三陸は古来より津波の常襲地帯として知られています。そのため、三陸の人びとの生活は繰り返し起きる津波によって幾度となく脅かされてきました。また、それと同時に津波に対する備えや知恵も人びとの間に脈々と受け継がれてきました。

この章では江戸時代～明治時代に書かれた盛合家の文書、明治三陸地震津波の写真乾板（図３）といった当時の資料をとおして、三陸で起きた歴史上の津波災害を紹介します。また、まだ記憶に新しい東日本大震災の写真パネル展示を行い、現代の津波被害の様子やそれに対する防災の取り組みについて学ぶ機会をお届けします。

図３　明治29年三陸津波ガラス乾板

■第４章「信仰とまつり」

三陸地域には内陸とは異なる独自の信仰や習俗が存在します。こうしたものには三陸を特徴づける生業に深い関わりがあるものがいくつもあります。

代表的なものの一つとして、三陸沿岸地域では大漁記念に船主や網元が祝着（バンテン（図４））を配るという習俗がありました。

図４　大漁バンテン（岩手県立水産科学館蔵）

また藩政時代の三陸沿岸では、弱ったり息絶えたりして浜に打ち上げられた鯨を「寄り鯨」と呼んでいました。鯨は肉や骨、油などが大量に採れるため、飢饉がよく訪れる時代にあっては重宝される存在でした。また、鯨は鰯などの群れを湾内に追い込んで大漁をもたらす存在とも言われており、岩手県沿岸では「寄り鯨」を「エビスさま」と呼んで崇め、信仰する風習がありました。

第４章ではこうした三陸を特徴づける信仰について紹介します。

■第５章「三陸の旅」

第５章では近世～近現代にかけての三陸の旅の在り方と、観光地としての三陸がどのように変わってきたのかを紹介します。

昔の旅人たちの旅道具や旅装束といった資料を中心に、まだ鉄道や車などの便利な移動手段がなかった時代、人びとがどのように旅をしていたのかを紹介します。また、近世～近現代の三陸を旅した有名人として、石川啄木の修学旅行の様子などをパネル展示でお見せします。

また、「大日本国順路明細記大成（図５）」といった江戸時代に描かれた地図や、「釜石市街鳥瞰図」、「岩手県陸中宮古浦景（図６）」などの近現代画像資料をとおして三陸の旅や風景の変遷をたどります。それと同時に三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルなど、現在の三陸の風景や旅を楽しむことができるスポットについても紹介します。

図６　錦絵「岩手県陸中宮古浦景」

会期中の関連イベントとして９月25日（土）10：00～10：30、および10月24日（日）14：00～14：30に、当館学芸員がリレー形式で展示資料の解説会を行います。

三陸の成り立ちや自然からそこに生きる人々の生活や歴史・文化にいたるまで、三陸の知られざる魅力を詰め込んだ展覧会をぜひ見にいらしてください。

（専門学芸員　望月　貴史）

図５　大日本国順路明細記大成

■活動レポート

第81回地質観察会「１億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！」

開催日：令和３年６月26日（土）

６月26日に田野畑村平井賀漁港周辺で第81回となる地質観察会を行いました。今回は、名古屋大学博物館　大路樹生先生を講師としてお招きし、「１億年前のサンゴ礁の海を見てみよう！」と題し、同地の海岸に見られる地層や化石の観察を行いました。なお、本観察会では一般参加者の方々に加え、三陸ジオパークでガイドを務める方々の参加もいただき、総勢約40名での観察会になりました。

開会行事の後、最初の観察地である平井賀漁港北岸に移動し、中生代白亜紀前期（約１億1000万年前）の地層（田野畑層）を観察しました。田野畑層の厚い礫岩の崖を観察すると、サンゴや二枚貝そしてアンモナイトの化石を見つけることができました。当時、近くにサンゴ礁が形成され多様な生物が共存し、さらに現在の沖縄のような熱帯から亜熱帯に近い環境だったことが推察できます。

次に、羅賀ふれあい公園に移動しました。ここでは明治三陸地震津波（1896年）によって運ばれたとされる津波石を観察しました。この岩塊の重量は約20トンと言われています。またオルビトリナという米粒大の有孔虫化石を多数含みます。この岩塊と同じ岩石の地層は、東に400m離れた海岸に分布しています。つまり、津波はこの巨大な岩塊を水平距離で400m、高さ20mを超える丘まで運んだのです。改めて、津波の威力を感じさせられました。

最後はハイペ海岸です。ここでは2011年の津波で運ばれた津波石を観察することができます。また宮古層群の重なりを間近で観察することができました。

新型コロナウイルス禍の難しい状況ではありましたが、田野畑村教育委員会をはじめとした多くの方の御協力のおかげで無事に観察会を実施することができました。心より感謝申し上げます。

（専門学芸調査員　佐藤　修一郎）

熱心に説明を聴く参加者の皆さん

■活動レポート

第81回自然観察会「干潟の生き物を観察しよう」

開催日：令和３年５月30日（日）

今回の自然観察会は、開館40周年記念特別展のテーマに合わせ、宮古市の金浜で開催しました。金浜は津軽石川の河口に位置する、県内最大規模の干潟です。講師には、ここで長年調査を行っている岩手医科大学の松政教授と、同助教の阿部先生、ポスト・ドクターの菅先生をお招きしました。

広い干潟には、小石の浜や砂質の浜、干潮時に現れる岩などがあり、場所を変えながら観察しました。参加者自身が生き物を採集し、その種類や特徴を講師の先生から教わることで、干潟には多様な生物が生息することが実感できたようです。参加者からは、図鑑でしか見たことのない生物の実物を見ることができ、解説もわかりやすくて楽しかったと、たいへん好評でした。

（専門学芸員　渡辺　修二）

写真３　アナジャコの巣穴調べ

写真１　生態の詳しい解説

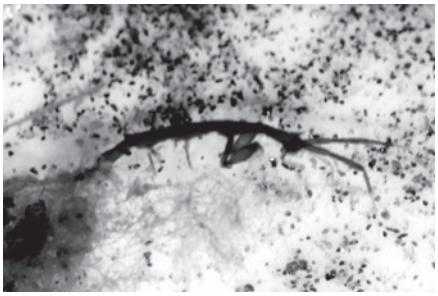


写真２　海藻の間にいたワレカラ

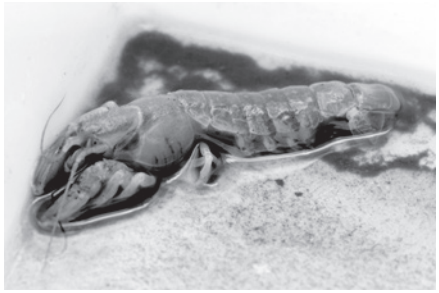


写真４　掘り出したアナジャコ

■解説員室より

博物館で映像をたのしもう！

まずは、何からご覧になりますか？

皆さんは、博物館で様々な映像が見られる事をご存知ですか？今日は博物館の映像上映をご紹介します。

一つ目は、毎月第一土曜日13時30分から地階講堂を会場とするミュージアムシアターです。幼児から小学生向けアニメのほか、一般向けの実写映像や時代劇も上映していますので、是非プログラムをチェックしてみてください。映画鑑賞のみ、無料でご利用できます。

二つ目は、２階展示室奥の映像室です。展示資料に関連したプログラムを、お客様のご希望に応じて上映しています。世界遺産となった平泉の「皆金色の極楽浄土」ほか「白亜紀へのタイムトラベル」、「描かれた参勤交代」や「岩手の自然」そしてユネスコ無形文化遺産に登録された「早池峰神楽」など多彩な内容を取り揃えています。お子さんには、昆虫や生き物の生態を分かりやすくアニメーションにした作品もありますが、何と言っても一番人気のプログラムは『恐竜大進撃』です。恐竜の誕生から絶滅までをスーパーサウルスが詳しく紹介してくれます。しかし現在は、感染拡大防止対策として１日３回の定時上映とし、座席数も減らしている事から、お客様には大変ご不便をおかけしています。

最後は、デジタルサイネージです。各展示室でその分野に関する３分～20分程度の映像を、ご自身のタイミングで見ることができます。地質では「いわての大地」が5億年前の岩手の姿を映し出し、歴史の「甦る都市・平泉」は、当時の平泉を再現しています。また現勢生物の「深海へのミッション」では、有人潜水調査船が水深6500mまで潜航し、生物を生きたまま捕獲するミッションに挑戦します。この他、民俗では、「倉沢人形歌舞伎」ほか県内の民俗芸能８番組が視聴でき、全６台が常時稼働しています。

映像をきっかけに興味が湧き、目の前の資料がより身近に感じられるかもしれません。気軽に映像を見に、博物館へいらっしゃいませんか。

（解説員　小原　みどり）

■事業案内

第１回　博物館で学ぶ岩手の歴史講座

開催日：令和３年10月16日、23日、30日、11月６日、13日、20日　いずれも土曜日　10：30～11：30　場所：教室

当館では昨年度まで、「古文書入門講座」と題し、岩手県の近世古文書のテキストを利用してくずし字について学ぶ講座を開講してきました。

今年度は装いを変え、「博物館で学ぶ岩手の歴史講座」として開講いたします。対象は、歴史を専門的に学んだことのない方、基礎から学びなおしたいと考えている方です。受講は無料で、高校生以上の学生及び一般20名、全６回のうち、できるだけ多くの講座に参加可能な方が望ましいです。

内容は、古代から現代の岩手および日本の歴史の歴史展開の概説と、和様漢文の初歩的解読法など史料の取扱法の解説を中心に、当館学芸員がリレー方式で講義いたします。

まず初回、２回目の講座では古代、中世の岩手の歴史について、『東鑑』などの基礎史料の読解を通して浮かび上がる歴史像を解説いたします。

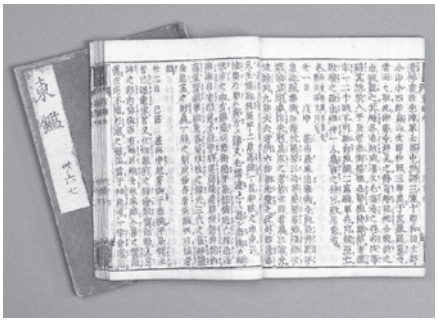
次に３、４回目の講座では、近世の岩手の歴史について、文字史料だけでなく地図なども利用し、政治や社会経済など広い分野から探っていきます。

５回目では、近現代の岩手で起きた出来事と、それに対応する日本、世界の流れの大きな枠組みについて解説します。

６回目は、『岩手県史』をもとに、廃藩置県を通してどのように「岩手県」が成立していったか、具体的な動きを学ぶ講座になります。

以上のように、多くの方にとって、郷土の歴史について興味・関心を深める機会になる講座にしたいと考えております。

往復はがきの郵送で申込を受け付け、定員以上の応募があった場合には、抽選で参加者を決定させていただきます。8月23日から9月20日の受付としておりますので、多くの方の御応募をお待ちしております。



写真『東鑑』（当館蔵）

（専門学芸調査員　工藤　健）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション　〈令和3年9月1日～令和3年12月31日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。
入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。
混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。ご利用を楽しみにしていただいている皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。
最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS 等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いします。

・「体験学習室」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、土日祝日は閉室しております。
・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいています。詳しくはお問い合わせください。
・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
・団体での入館は午前・午後各 100 名程度までとします。解説時は 30 名まで受け付け、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

お知らせ

●資料整理に伴う休館
令和３年９月１日(水)～９月10日(金)は資料整理のため休館します。

●敬老の日　65歳以上入館無料
令和３年９月20日(月･敬老の日)は65歳以上の方は無料で入館できます。

●文化の日　入館無料
令和３年11月３日(水･文化の日)は無料で入館できます。

展覧会

●移動展
開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見 in宮古」
令和３年９月25日(土)～10月24日(日)
会場･共催:岩手県立水産科学館(宮古市日立浜町32-28)
三陸地方のくらしや文化と、それらを育んだ自然を多角的に紹介します。三陸の多様で奥深い魅力を再発見し、新たな旅に出かけてみませんか。
◆展示解説会　当日受付、要入館料
①9月25日(土)10:00～10:30　②10月24日(日)14:00～14:30
展覧会の内容を担当学芸員がリレー解説します。

●テーマ展「教科書と違う岩手の歴史―岩手の弥生～古墳時代―
令和３年11月23日(火･祝)～令和４年２月６日(日)　会場:2階･特別展示室
弥生～古墳時代、稲作や金属器など最先端の技術が大陸から伝わり日本は文明化の道を歩み始めたと教科書では教えます。しかし、朝鮮半島から遠く、ヤマセが吹いて稲作に向かない岩手の地ではどうだったでしょうか。
◆文化講演会　13:30～15:00　要事前予約、聴講無料　会場:地階講堂
★人数制限あり、詳細はHPをご覧ください。
11月27日(土)「卑弥呼の時代―その頃の岩手―」講師:石川日出志氏(明治大学教授)
◆展示解説会　14:30～15:30　要入館料
★人数制限あり、当日先着15名
①11月23日(火･祝)　②12月25日(土)　③1月16日(日)

県博日曜講座

第2･第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料　会場:地階･講堂
★人数制限あり、当日先着50名程度(コロナウイルス感染防止対策により変更する場合があります。詳細はHPでご確認ください。)
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
*展覧会関連講座
9月12日「石碑に刻まれた三陸津波の記憶」講師:目時和哉(当館学芸員)
9月26日「前川善兵衛家の出自について」　講師:昆浩之(当館学芸員)
10月24日「先祖をまつる～岩手の先祖供養～」
講師:川向富貴子(当館学芸員)
11月14日「岩手のワスレナグモは変わり者？」
講師:渡辺修二(当館学芸員)
11月28日「鳥類学者がアートを語る―花鳥画家渡辺省亭の超絶技巧―」
講師:髙橋雅雄(当館学芸員)
*12月12日「教科書と違う岩手の弥生時代」講師:金子昭彦(当館学芸課長)
*12月26日「北と南からみた岩手の古墳時代」
講師:井上雅孝氏(滝沢市教育委員会)

週末の催し

◆ミュージアムシアター　※９月はお休みします
毎月第１土曜日 13:30～15:00頃　当日受付、視聴無料　会場:地階･講堂
★人数制限あり、当日先着50名
○10月２日　高校野球の名曲「ああ栄冠は君に輝く」(実写/90分/一般向け)
○11月６日　女性の奮闘(時代劇･児童劇/計105分/一般向け)
①かあちゃん(時代劇/60分)
②がんばれたえちゃん木曽馬と少女(児童劇/45分)
○12月４日　冬休み直前アニメスペシャル
(アニメ/計90分/幼児～小学生向け)
①トムとジェリー　恋ははかなく(８話収録)(アニメ/60分)
②かさこ地ぞう(アニメ/13分)
③つるのおんがえし(アニメ/17分)

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第２･第３土曜、日曜、祝日　小学生向け　随時受付
チャレンジ！マークをさがして　はくぶつかんをたんけん！
9月　18日･19日･20日･25日･26日　テーマ:西(にし)
10月　9日･10日･16日･17日　テーマ:祭(まつり)
11月　13日･14日･20日･21日　テーマ:空(そら)
12月　11日･12日･18日･19日　テーマ:寒(さむ)い

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日　13:00～14:30
幼児(３歳以上で保護者同伴)･小学生５名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に３名まで予約可能です。予約状況･材料費代はホームページでご確認ください。

9月	お休み	11月	7日　化石のレプリカ 14日　手づくり万華鏡 21日　お絵かきはんこ 28日　松ぼっくりのXmasツリー
10月	3日　猫絵馬づくり 10日　お休み 17日　スライムであそぼう 24日　砂絵 31日　カラフルクモづくり	12月	5日　松ぼっくりのXmasツリー 12日　まゆで干支づくり(寅) 19日　かんたん門松 26日　まゆで干支づくり(寅)

◆博物館で学ぶ岩手の歴史講座(事前申込制)
10月16日、23日、30日、11月6日、13日、20日(いずれも土曜、計6回)
10:30～11:30　会場:地階･教室　受講無料
高校生以上の学生及び一般20名(超過の場合は抽選)
当館学芸員による岩手の歴史入門講座です。古代から現代までの歴史の流れを振り返るとともに、資料が物語る岩手の歩みを分かりやすく解説します。歴史を専門的に学んだことのない方や基礎から学びなおしたいと考えている方を主な対象とします。
※申込期間は８月23日(月)～９月20日(月･祝)まで、往復はがきでの申込を受付けております。できるだけ多くの回に参加できる方が望ましいです。
※詳細は当館HPをご覧ください。

第２回写真コンテスト「私の岩手山」作品募集中！

四季折々の岩手山の姿を写真にして博物館に送って下さい。
応募形式　単写真(A4版　１人３枚まで応募可　機材･白黒カラー不問)
応募方法　当館HPから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、写真の裏面に貼付け、当館総務課宛に送付してください(持参も可)。
応募期間　令和３年６月19日(土)～令和４年２月25日(金)16:30必着
令和４年度中に、応募者全作品の展覧会を開催予定。

利用のご案内

■開館時間　9:30～16:30(入館は16:00まで)
■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始(12月29日～１月３日)
■入 館 料　一般310(140)円･大学生140(70)円･高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は入館料免除となります。
※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様とご一緒に来館された場合は、入館料免除となります。
※スマートフォンによる障害者手帳アプリ「ミライロID」に対応しています。

岩手県立博物館だより
第170号
令和３年９月１日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
Tel. (019)661-2831 ／ Fax. (019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
Tel. (019)654-2235 ／ Fax. (019)625-3595